

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しもう

木を使おう

三重の林業



株式会社百五銀行から「みえ森と緑の県民税基金」への寄付金贈呈式が行われました
(関連記事3ページ)

目次

2025年9月
No. 448

バックナンバーはこちら



話題を追って	菰野町みどりの少年隊が、美しい森づくり活動コンクールで会長賞を受賞しました！ 四日市農林事務所 林業普及指導員 糸魚川 学	2
話題を追って	株式会社百五銀行から「みえ森と緑の県民税基金」への寄付金贈呈式が行われました 三重県農林水産部 みどり共生推進課	3
話題を追って	6月8日(日)伊賀市の「里山かがく学院」で三重の森づくりネットワーク交流会を開催しました！ 三重県農林水産部 みどり共生推進課	4
話題を追って	宅地造成及び特定盛土当規制法(盛土規制法) ～森林作業道の留意点について～ 三重県農林水産部 治山林道課	5
話題を追って	グリーンウッドタクミ協同組合が日本製材技術賞の農林水産大臣賞を受賞しました！ 松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白	6
話題を追って	尾鷲にヒノキをもっとたくさん植えようプロジェクトははじめます 尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之	7
話題を追って	「木の町熊野木工コンクール」の上位入賞作品が農林水産大臣賞等に選ばれました！ 三重県木材青壮年団体連合会 会長 田中 俊輔	8
頑張ってます！	齋藤木材有限公司の新しい取組み 酵素浴とは？ 松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白	9
この人に聞く	第118回 株式会社nojimoku 取締役会長 野地 洋正 さん 聞き手:熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖	10
連載	<三重大学>第32回 森林からの蒸発散 ～森林から大気へ返る水量を測る～ 三重大学大学院 生物資源学研究所 平倉演習林 鶴田 健二	12
技術情報	大断面スギ正角柱材の感想について 林業研究所 主幹研究員 中山 伸吾	14
寄稿	長森なあなあ日常 ～七転び八起き～ 松阪飯南森林組合 長森 祐介	16
情報提供	「三重の林業」をデジタルアーカイブ化しました！ 三重県林業技術普及協会 顧問 前田芳宏	17
木材市況	木材市況(令和7年8月)	18
その他	三重の林業(令和7年7月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～	18

菰野町みどりの少年隊が、美しの森づくり活動コンクールで 会長賞を受賞しました！

四日市農林事務所 林業普及指導員 糸魚川 学

菰野町みどりの少年隊が、(一社)全国森林レクリエーション協会の森林レクリエーション地域「美しの森づくり活動コンクール」の会長賞を受賞しました。

▽美しの森づくり活動コンクール

美しの森づくり活動コンクールは、一般社団法人全国森林レクリエーション協会が行っている表彰制度で、森林レクリエーションを通じた地域創生のための活動を行う団体等が表彰されます。

▽菰野町みどりの少年隊

菰野町みどりの少年隊は、昭和54年に結成され、現在、菰野町内の小学生41名が隊員として活動しています。隊員たちの活動にあたっては、地域の森林整備団体や保護者らが指導者として活動をサポートしています。

隊員たちは、月に1回程度活動を実施しており、御在所岳での植樹活動や赤トンボの生息調査、三重県民の森での花壇の整備活動、地元キャンプ場での生物観察等を行い、地域の自然と楽しく触れ合いながら環境を保全する活動を行っています。

また、隊員自らが緑の募金を呼び掛けるなど、地域の人々に森づくりの輪を広げる活動も行っています。



隊員による緑の募金の呼びかけ

▽受賞にあたって

今回の受賞にあたり、菰野町みどりの少年隊の石崎昭文会長からは、「隊の活動は、地元の子供たちが地元の山や森で遊んだり森林整備をしたりすることを基本的な方針としており、そのようなことが評価されて受賞につながったと思う。現在、菰野町みどりの少年隊は、3つの隊（朝上隊、千種隊、竹永隊）が活動しているが、将来的には菰野町全域の小学生が活動に参加できるよう、協力していただける方々を増やすなどして体制を整え、活動をさらに広げていきたい。」と力強いコメントをいただきました。



御在所岳での植樹活動



菰野町みどりの少年隊の石崎昭文会長

株式会社百五銀行から「みえ森と緑の県民税基金」への寄附金贈呈式が行われました

三重県農林水産部 みどり共生推進課

株式会社百五銀行から「みえ森と緑の県民税基金」へ寄附金をいただくこととなり、令和7年5月1日（木）、寄附金贈呈式が行われました。

1. 百五銀行の新たな取組について

百五銀行は、SDGsへの取組の一環として、令和6年8月に「105寄付型定期預金」を創設し、預入された預金残高の0.01%相当額について、三重県及び愛知県が設置した基金に寄附を行う取組を開始しました。

令和6年度の取組に係る寄附は、森林保全に関する基金である三重県の「みえ森と緑の県民税基金」と、愛知県の「あいち森と緑づくり基金」に行われることとなりました。

2. 「みえ森と緑の県民税基金」について

三重県では、平成26年に「みえ森と緑の県民税」を導入し、市町と連携しながら、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」の2つの基本方針に沿った取組を進めています。

「みえ森と緑の県民税基金」は、県民の皆さんからの税収や企業等からいただいた寄附金を積み立てている基金で、用途は「みえ森と緑の県民税」の趣旨に沿った取組に限定し、その他の財源と区分して管理しています。

3. 寄附金贈呈式の様子

令和7年5月1日（木）、三重県庁プレゼンテーションルームにおいて、寄附金贈呈式が行われました。

百五銀行からは、杉浦取締役頭取、荒木田取締役常務執行役員、村木リテールコンサルティング部部長、三重県からは、一見知事、枡屋農林水産部部長、福島農林水産部次長が出席しました。

贈呈式において、杉浦取締役頭取からは、「『105寄付型定期預金』の創設を通じて、SDGsに対する県民の皆さんの関心の高さを実感した。本取組の最初の寄附先は、県民の皆さんに身近に

感じていただける環境問題にフォーカスし、森林保全に関する基金である『みえ森と緑の県民税基金』を選定させていただいた。」とご挨拶をいただくとともに、一見知事に寄附金の目録を手渡しいただきました。

一見知事は、「心から感謝申し上げる。森林の保全は災害防止などにつながり、県民の生活を守るためにも大変重要。いただいた寄附金は、『災害に強い森林づくり』に加え、森林教育の取組にも活用していきたい。」と謝辞を述べ、杉浦取締役頭取に感謝状をお渡ししました。



杉浦取締役頭取(左)と一見知事による記念撮影

4. 寄附金の活用について

このたび、百五銀行からいただいた寄附金は、8,026,863円となっています。

いただいた寄附金は、「みえ森と緑の県民税」の趣旨に則り、土砂や流木による被害を出さないための「災害に強い森林づくり」と、森林教育に携わる人材の育成や県民の皆さんが森林にふれて学ぶ場の提供などを行う「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進に向けて活用していく予定です。



6月8日(日)伊賀市の「里山かがく学院」で 三重の森づくりネットワーク交流会を開催しました！

三重県農林水産部 みどり共生推進課

令和7年6月8日(日)、伊賀市の「里山かがく学院」において三重の森づくりネットワーク交流会を開催しました。

(三重の森づくりネットワークについて)

三重県では、令和6年10月5日(土)に公益社団法人三重県緑化推進協会のご協力のもと、企業、NPO、教育機関、行政などで構成する、「三重の森づくりネットワーク」を立ち上げ、三重の森づくり運動を幅広く展開するための人づくりや、森林教育などに取り組んでいます。

(交流会について)

令和7年6月8日(日)、三重の森づくりネットワーク会員(以下、「会員」という。)を対象に、森づくりに係るノウハウの向上と会員同士の交流を促進するため、交流会を開催しました。

まず、会員でもある「里山をしる会」のスタッフの協力のもと、活動フィールドである里山で自然観察会を実施しました。

里山では、希少な植物やモリアオガエル、モモンガなどの様々な動物が生息し、多様な生態系を形成していました。



自然観察会の様子

自然観察会の後は、「里山をしる会」スタッフの活動拠点である「里山かがく学院」において、昼食をとりながら森づくりに関する意見交換が行われるなど、会員同士での交流を深めていただきました。

午後からは「里山をしる会」スタッフによる活動

事例発表と講演がありました。

活動発表事例では、親から受け継いだ旧邸宅を自然学習、森林教育施設として再利用していることや、子どもたちが自分たちで考えて遊ぶ主体性を重要視していることなど、活動における様々な工夫についてお話いただきました。

また、講演「自然観察会開催のポイントと留意点について」では、「本の知識が全てではなく、実際に現地を歩いてみないと分からないことがたくさんあること、それを知るためにも必ず山に足を運んでほしい。」と講師の方から熱弁があり、講演を聞いた方は深く頷いていました。

最後に「里山をしる会」の活動についてグループ討議を行い、優れている点と、アドバイスできる点を取りまとめてグループごとに発表しました。

優れている点としては、フィールドが生物多様性に富んでいること、地元の良さを受け継いでいこうとする情熱にあふれた方がいること、自然学習、森林教育の拠点(旧邸宅)があることなどが挙げられました。

アドバイスできる点としては、里山の植物の見どころをカレンダーにして季節ごとにピックアップすると、同じ人でも年間を通して足を運んでもらえるのではないか、というような意見が挙げられました。



グループ討議、発表及び講評

三重の森づくりネットワークでは、今後も会員同士の交流を図るとともに、森づくりの大切さや森林の持つ魅力を県民の皆さんへ発信し、三重県の森づくりの輪を拡大していきます。

宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法） ～森林作業道の留意点について～

三重県農林水産部 治山林道課

三重県では令和7年5月26日から宅地造成及び特定盛土等規制法による規制が始まっています。

◆はじめに

令和3年に熱海市で発生した土砂災害を受けて、「宅地造成等規制法」が「宅地造成及び特定盛土等規制法」（以下「盛土規制法」という。）に改正されました。三重県では令和7年5月26日に県内全域が宅地造成等工事規制区域又は特定盛土等規制区域に指定され、規制が始まりました。規制区域を図1に示します。この規制によって、一定規模以上の盛土、切土、及び一時的な土石の堆積には一部の例外を除いて届出又は許可（以下「手続き」という。）が必要になりました。この手続きが必要となる規模を図2に示します。

◆規制について

例えば盛土又は切土を行う面積が500m²を超えたり、勾配が30度を越えた盛土の高さが1mを超えると手続きの対象になります。通常、森林内に作業道を開設しようとするこの規模に該当する場合はほとんどだと思われます。しかしながら、盛土規制法施行規則において「森林の施業を実施するために必要な作業路網の整備に関する工事」については災害のおそれがなく手続きを必要としないと定められています。

◆留意点について

ですが、森林内に開設する作業道であればすべて手続き不要になるわけではありません。まず、「森林の施業を実施するため」であることから、森林内に開設するといっても、森林施業と関係のない作業道、例えば生活道路、森林施業と関係のない施設の管理用道路などは森林施業のための作業道とは言えません。開設後、森林の施業にも利用したとしても開設時の目的が異なりますから手続きは必要です。

次に、森林法において森林所有者等は市町村森林整備計画の遵守が定められており、その市町村森林整備計画のなかで森林作業道作設指針、三重県森林作業道作設指針（以下、「作設指針等」という。）の規定を踏まえて開設することとなっています。この

「森林の施業を実施するため」と「作設指針等の規定に基づくこと」をともに満たせば、盛土規制法に基づく手続き等は不要と判断されます。従って、これら2つのうち片方あるいは両方を満たさないのであれば、その作業道の規模に応じた手続きが必要になります。これから森林作業道を開設しようとする場合はこの2点にご留意ください。

なお、森林計画区域内の盛土規制法に関するお問い合わせは三重県庁治山林道課（059-224-2573）、作設指針等に関するお問い合わせは森林・林業経営課（059-224-2563）まで。

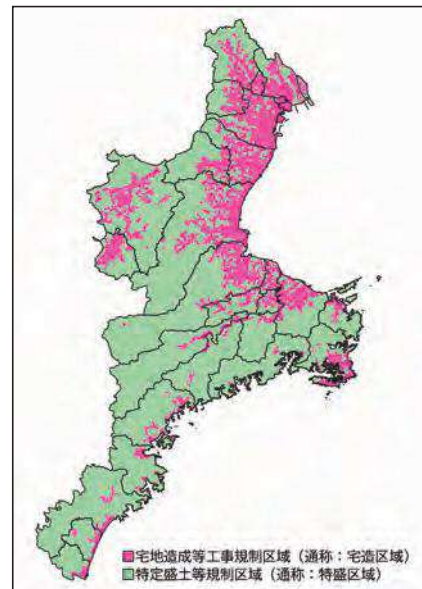


図1. 県内規制区域図

例えば… ●宅地を造成するための盛土・切土 ●残土処分場における盛土・切土
●太陽光発電施設の設置のための盛土・切土 等

要件	①盛土で高さが1m超の崖を生ずるもの	②切土で高さが2m超の崖を生ずるもの	③盛土と切土を同時に行い、高さが2m超の崖を生ずるもの(①、②を除く)
イメージ図			
要件	④盛土で高さが2m超となるもの(①、③を除く)	⑤盛土又は切土をする土地の面積が500m ² 超となるもの(①～④を除く)	宅造区域では許可 特盛区域では届出が必要
イメージ図			

※「崖」とは、地表面が水平面に対し30度を超える角度をなす土地で、硬岩盤(風化の著しいものを除く)以外のものをいいます。

図2. 手続きが必要な規模の一例

グリーンウッドタクミ協同組合が日本製材技術賞の農林水産大臣賞を受賞しました！

松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白

1. はじめに

この度、グリーンウッドタクミ協同組合（以下「グリーンウッドタクミ」という）が、令和6年度に新たにスタートした表彰制度である日本製材技術賞の栄えある農林水産大臣賞（最優秀賞）に選ばれました。

日本製材技術賞とは、令和5年度までに過去50回開催されてきたJAS製材品普及推進展示会（通称：JAS展）に替わり、製材を生産する工場の生産技術や品質改善、地域振興への貢献等にスポットを当てた表彰制度です。

今回の記事では、全国の161工場の応募の中から農林水産大臣賞を獲得したグリーンウッドタクミについて紹介します。



グリーンウッドタクミの製材品

2. グリーンウッドタクミについて

グリーンウッドタクミは松阪市木の郷町を拠点とし、年間3万㎡の原木加工を行う東海地区最大級の製材工場です。また、グリーンウッドタクミの特徴の一つとして大規模製材工場では珍しく、柱だけでなく梁、桁、土台、床材など、家の建てるすべての部材を生産しています。

3. 受賞の理由

今回、農林水産大臣賞受賞の決め手の一つとなったのが、地域の課題解決に向けて取り組んだ独自の技術の評価された点です。

全国的に山林が主伐期を迎えるなか、三重県の山は全国平均よりも一足早く高齢級・大径木を産出する地域であり、一般的な材の挽き方である「芯持ち材」では歩留まりの悪い大径木の扱いが課題となっていました。そこでグリーンウッドタクミは、1本の原木から複数本の材を採る「芯去り材」の生産に目を向け、試行錯誤を行った結果、高品質の「芯去り材」の生産を可能としました。

また、木材を乾かす際に乾燥機を使って人工乾燥する場合、年輪に対して放射状に割れる「内部割れ」というのが一定の頻度で発生します。一般的に強度には影響がないとされていますが、見た目が悪いことから建築業界ではしばしば敬遠されてきました。そこで、「内部割れ」を起こさないよう高温乾燥と中温乾燥と段階的に行う手法を導入し、質の高い材の生産体制を整えました。

これらの独自の技術を開発するとともに、グリーンウッドタクミは認証制度の取得にも力を注いでお

り、三重県を含む6府県（三重県、岐阜県、愛知県、京都府、滋賀県および奈良県）の「県産材認証」を取得し、地域材の供給に積極的に取り組んでいる姿勢が、今回の技術賞において高く評価されました。

4. グリーンウッドタクミの職場環境

グリーンウッドタクミには「商品こそ我生命 人こそ我宝」という社訓があります。商品づくりに誇りを持つことはもちろんですが、やはりそれを手掛ける社員を大切にしなければならないという理事長の考えです。その社訓がただの言葉とならないよう、理事長は常に職場環境の改善を検討しているそうです。例えば、社員一人一人が主体性を持つような勉強会を開催したり、コミュニケーションの活性化を図るために社員旅行を企画するなど様々な取り組みに力を入れているそうです。

そういった日々の努力の積み重ねの結果、令和5年1月には中小企業無災害記録証（金賞）を授与されました（無事故連続記録は金賞受賞後も続き、記録は3332日）。この無災害記録（金賞）は、木材・木製品製造業部門においては、全国でもグリーンウッドタクミしか達成していない記録であることから、グリーンウッドタクミが組織としてどれだけ人材を大切にしているかがうかがい知れます。



労働無災害連続3050日達成の際の記念撮影

5. おわりに

これまでご紹介したとおり、とても精力的に製材業を行っているグリーンウッドタクミですが、理事長に「最後に伝えたい事はございますか？」と尋ねたところ、「我々製材業は原木がないと仕事ができないので、原木を切り出す山元に活気があって欲しいです。そのためには、原木を高く買っていくことも考えていかなければならないと思っています。そうすれば、製材業と山元がWin-Winの関係になれる。そんな社会を目指しています。」とおっしゃって見えました。

ご自身の会社だけでなく、林業・木材産業全体の明るい未来を描くグリーンウッドタクミに賛辞の意を表するとともに、この度の受賞を心よりお祝い申し上げます。

尾鷲にヒノキをもっとたくさん植えようプロジェクト はじめます

三重県尾鷲農林水産事務所 林業普及指導員 伊藤 克之

1 はじめに

三重の林業7月号で紹介しました紀北町地域おこし協力隊の坂入さんと、森林組合おわせ、林業普及指導員が主体となって、令和7年10月にクラウドファンディング（※1）を行う予定です。皆様の温かいご支援をお待ちしています。

2 概要

このプロジェクトは、尾鷲地域のヒノキ林業を保全するために、クラウドファンディングを通じて密植費用を捻出することを目的としています。日本農業遺産である尾鷲ヒノキ林業を保全し、優良なヒノキ材の生産、地域の活性化に寄与することを目指します。また、このプロジェクトを通じて、地域の人々に尾鷲ヒノキの良さや誇りを感じてもらい、地域外の人々に対してはそのブランド力を向上させ、尾鷲ヒノキの魅力を広めていきます。

3 背景

尾鷲地域は古くから優良材を生産してきましたが、材価の低下、柱材の需要低下、担い手不足等、現在様々な問題を抱えています。森林の管理や保全には多くの資金と人手が必要です。特に、密植はまっすぐで美しい木材を生産するために必要な施業ですが、最近のトレンドは低密度植栽による低コスト造林です。この尾鷲地域でも、密植をしている山はどんどん減ってきており、このままでは将来、尾鷲ヒノキといわれる優良材はなくなってしまいます。そこで、このプロジェクトを通じて、地域の方々と協力し、持続可能な尾鷲ヒノキ林業を実現します。

4 目標と期間（※2）

- ・目標額:50万円（おおよそ0.5ha）
- ・ha当り植栽本数：6000本
- ・期間: 2025年10月1日～ 11月15日

5 リターン（※2）

尾鷲地域の木工品や農林水産物をリターンとして提供する予定です。

6 最後に

ごくごく小さな面積ではありますが、地域の皆様や地域外の皆様に対して、尾鷲の林業頑張ってるな、

一緒に盛り上げていきたいな、と思ってもらえるようなモデル事業として行います。

読者の皆様も、一緒になってこのプロジェクトを盛り上げていただけると幸いです。



プロジェクトメンバー（一番右が坂入さん）



事前公開限定URL



- （※1）クラウドファンディングとはインターネットを通じて、自身のプロジェクトを公開し、それに共感した不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達すること
- （※2）この記事は令和7年8月に作成しております。クラウドファンディングの内容や時期等については変更する可能性があります。

「木の町熊野木工コンクール」の上位入賞作品が農林水産大臣賞等に選ばれました!

三重県木材青壮年団体連合会 会長 田中 俊輔

「第49回全国児童・生徒木工工作コンクール」(主催：日本木材青壮年団体連合会)が開催され、全国から16,023点もの作品が集まりました。

その中から、熊野市立金山小学校3年・峪中結月(さこなか ゆづき)さんの「木カツ」が農林水産大臣賞を、熊野市立井戸小学校5年・下岡諒陽(しもおか あさひ)さんの「木モック～川のハンモックと山のハンモック」が日本木材青壮年木育創造委員長賞をそれぞれ受賞しました。



【農林水産大臣賞】「木カツ」

峪中結月さんの作品「木カツ(モクカツ)」について、審査員からは「木材の特徴を活かした表現力と、日常の食べ物を題材にした着眼点が秀逸。シンプルながら強く印象に残る傑作」との講評が寄せられています。



【日本木材青壮年木育創造委員長賞】
「木モック～川のハンモックと山のハンモック」

一方、下岡諒陽さんの作品「木モック～川のハンモックと山のハンモック～」について、審査員からは「コンセプトが明確で、自然への想いが作品に込められている。構造も工夫されており、完成度が高い」と高く評価されました。

今回は、農林水産大臣賞を受賞された峪中さんからお話を伺いましたのでご紹介いたします。

Q 農林水産大臣賞を受賞してどう思いましたか？

驚いたしすごいと思った。(受賞式は)緊張した。

Q この木カツはどうやって作りましたか？

お父さんと一緒に2～3時間くらいで作った。
木カツを作ったのは豚カツが好きだから。

Q どこが大変でしたか？

パン粉を作るのが大変だった。おが粉をボンドで付けるときに手にくっついた。

Q 木工はどうでしたか？

楽しかった。これからも作品を作りたい。

Q 木は好きですか？

(無言で力強くうなずく。)



賞状を手に持つ峪中結月さん

齋藤木材有限会社の新しい取り組み 酵素浴とは？

松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白

1. はじめに

昭和30年に創立した齋藤木材有限会社（以下「齋藤木材」という）、その歴史ある製材会社の代表者が令和4年6月に齋藤匠さん（当時33歳）へと代替わりしました。全国的に住宅着工数が落ち込み製材業が厳しい中、会社の生き残りをかけて行ってきた取り組みについてご紹介します。



齋藤 匠さん

2. 齋藤木材とは

松阪市飯南町下仁柿に工場を構える、昔からヒノキの通し柱を専門に扱ってきた製材会社です。通し柱とは2階建ての住宅を建てる際に欠かせない土台から軒までを通す継ぎ目のない一本の柱のことで、通常

は家の四隅に使われる部材です。長さ6m以上という長尺である通し柱の製材には、4m柱よりも太い直径の原木が必要であったり、長尺専用の製材機械を用いる必要があったりという特徴があります。

齋藤匠さんが新社長へ代替わりをした頃から木材産業を取り巻く社会情勢は非常に悪く、住宅業界では着工数や一軒家坪数平均が落ちこみ、さらには平屋建てが増えてきたことによる通し柱の利用減という状況に悩まされていたそうです。

会社を運営していくためには、今後ヒノキの通し柱のみの生産では厳しくなっていくと判断し、ヒノキ材に拘らずスギ材の通し柱の生産にも舵をきることにしました。また、長尺の柱だけでなく4m柱や、板材についても生産していくように方針転換を行いました。新しい部材を販売していく上で、卸先の業者から厚さmm単位の仕様の変更があるなど、新規販路開拓に伴う苦労はたくさんあったとの事です。

3. 酵素浴という新たな取り組み

会社の改革を進める中で、製材をする際に発生する「おが粉」を有効利用する方法はないだろうかという考えが浮かび、当時、全国で200店舗ほど開業されていた「酵素浴」というものに着目しました。

酵素浴というのは、米ぬかとおが粉を混ぜて発酵させ、その発酵熱を利用して砂風呂のように身体を埋める温浴方法です。新鮮なおが粉を使用することによりまるで森林浴をしているかのような心地よいヒノキの香りに包まれ、

心身ともにリラックスできるような施設となります。

新しく酵素浴事業を手掛けるにあたり、おが粉の最適な粒度を模索したり、発酵体を入れ替えるサイクルを調整したりと様々な試行錯誤を経て、ついに令和7年3月、多気町波多瀬にて酵素浴のお店「酵素浴やまとや」が開店されました。



「酵素浴やまとや」の内装

ちなみに酵素浴で使われたおが粉については、その後肥料という形で地元の農家へ配り、最後まで活用することを心がけているそうです。

4. 酵素浴の意外な影響

これまで製材業者としての仕事はBtoB（材を扱う工務店などとの取引）がほとんどで、一般の方と接する機会は稀だったそうです。今回始めた店舗事業はBtoC（消費者（地元に住んでいる方）との取引）の業務であり、地域の方々が木材や木製品についてどのように思っているのかを肌で感じる機会が増えたとの事です。地域の方々からの「この家具が素敵だ」とか「こんな家を作りたい」などの相談を受ける事が増え、「それらの要望に応えられるような会社を作っていきたい、もっと地元に関わりたい会社になりたい！」と思うようになり、より一層、会社の運営に力がこもったとおっしゃっていました。

5. さいごに

今回は「酵素浴やまとや」の経営を始めた齋藤木材有限会社にスポットを当てました。

木材の活用方法がたくさんある中で、ユニークな使い方をしている「酵素浴やまとや」の営業は、

火曜から土曜日の9時～15時30分、女性のみ利用可能な施設となっております。皆さん、ぜひ一度木材利用の新たな取り組みを体感してみてください。



第118回 株式会社nojimoku 取締役会長 野地 洋正 さん

聞き手：三重県熊野農林事務所 林業普及指導員 平田 聖

今回お話を伺ったのは、株式会社nojimoku 取締役会長 野地 洋正 さんです。

野地会長は、半世紀近く製材に携わり、また、地域の発展をいろんな形で支えた長年の功労が認められ、令和7年の春の叙勲において旭日小綬章を受章されました。

「大した事してないんやけどね…」と謙遜しながら、会社を経営することの大変さ、“木”の奥深さと魅力を教えていただきました。



「木挽座」（こびきざ）で吉野熊野新聞社から取材を受ける野地会長（吉野熊野新聞社から写真提供）

●時代に合わせ、品質を高め付加価値を付ける。

（長年の取組が評価されたのだと思いますが、これまでどういったご苦労がありましたか？）

自分が製材をやり始めたときは、良質な柱材を専門にやってたんやけど、自分では売らずに全国各地の製品市場に持ちこんでね。

当時は、どんな品質のものでも市場に持って行けば売れたから作るだけやった。

ただ、建物の構造が変わったり、集成材が出来たり、需要がどんどん減るだろうということは感じてはいて、適寸の丸太より太いものを買って、柱の周りから板も採るようにしてね。

そうこうしていると、柱材が段々と売れなくなってきて、これはいよいよアカンとなってね。

だから、品質を高めて付加価値を付けて、使ってもらう人に喜んでもらえるようなモノづくりをする方向に徐々に変えてきた。モルダーも40年前には入ってたからね。



nojimokuの「木挽座」。
野地会長が志向した品質の高い製品を体感出来る、
製材工場としては珍しいショールーム。

ところが、これにはいろいろと問題があつてね。

●“木は生き物”。だから時間がかかる。 （どういった問題ですか？）

品質のために木をちゃんと乾燥させるには時間がかかるんよ。ヒノキはまだええけど、スギはなかなか乾かん。

スギの構造材で、乾燥機に20日間入れたら含水率が10%くらいまで下がるやつもあるけど、40%を下回らないやつはいつでもある。

とにかく、スギはすごいバラつくんやよ。

（そんなに差がありますか。）

木は生き物やからね。産地ごとに含水率も違う。人工乾燥も、木を傷めないような温度に調整して20日間入れて、そのあと屋根の無いところに3か月、それから、屋根のあるところに移動させてもう3か月以上置いておく。

だから乾燥工程で1年はかかるよ。逆にこれぐらい時間をかけていない木は狂いやすい。

（そんなに時間がかかるんですね。）

やっぱり無垢の木らは時間をかけて地域の気候に馴染ませなあかんからね。

天然乾燥だけでは構造材はちゃんとした製品にならなくて、人工乾燥を併用した方が、製品にしたときに品質の良いものが出る。

乾燥に時間がかかるから、ストックヤードが必要

で、ある程度のロットも必要になるから、在庫を抱えることになる。

だから、今の状態になるまでストックヤードの整備と資金調達には本当に苦労したね。

●100年前の林業は現代にも

(乾燥の方法は独自に編み出したんですか?)

試行錯誤しながらね。でも、考えてみると昔の林業と一緒に。

昔は、川に丸太を浮かべて運んでたけど、木を切り倒してからしばらく置く必要があった。重くて筏を組めんし、沈んで流れんから仕方なしに。

でも、丸太を水に浸けるのは、スギとかの色が黒いとこの所謂“アク”が抜けたり、良く乾燥したり、木にとっては良いことなんよ。

(水に浸けるのに良く乾くんですか。)

水に浸けると赤身の部分、要するに丸太の中心の水分が抜けてくるんやね。それが、蒸気で蒸しながら乾燥する今の乾燥機がそれを再現していると思うね。

(人工乾燥というと工業的に聞こえますが、むしろ乾燥の仕方は100年前と近いんですね。)

当時は土壁で、構造材が組み上がった状態で3か月くらい置かなあかんかったしね。家が建つまでに自然と時間がかかった。

昔の自然な乾燥の仕方が結局は家にとって一番良くて、それを機械で再現する為に、乾燥期間をどう短縮するか、やと思うよ。

最近も新しい天然乾燥の仕方を息子らがやり始めてね。天然乾燥は燃料代を抑えられるし、何より色が良いね。



nojimokuの天然乾燥施設。エネルギー源はお日様。

●熊野の木の“ファン”を作る

(nojimoku は地域で辞めた製材所を買取ながら規模を拡大してきました。こういった考えで規模拡大してきたのですか?)

昔、これからは地域がひとつの大型製材工場になるんじゃないか、地域間で競争をしていく時代になるんじゃないか、そんな予感があった。

だから、熊野の地域から出る木材は、どの製材所から調達しても文句のない木材が出てくる、品質もロットも揃う、熊野の商品はこうだと言える、そんな地域を目指そうと取り組んでいた。これが実現すれば地域全体の木材が使ってもらえるようになる。

(熊野地域で生産する木材のファンを作ろうという事ですか。)

無垢の材で、まったく狂わない材というのは作れないけど、出来るだけ狂いの少ない製品を作ろうと。そうした努力が買い方にわかってもらえたら、他のところから買わなくなるということやね。

ただ、実際に地域にこの考え方を理解してもらって実現するというのは難しくてね。

そうこうしているうち、辞めていくところが出てきたから、そうしたところを買取って規模を拡大しながら、品質確保は自分たちでやろうとやってきた。

そうしてあちこちに拠点があるけど、災害には強いね。一部の製材所でトラブルが起きても、他のところが製材出来るから。

(今後の nojimoku はどうなっていくと思いますか?)

ユーザーに喜んでもらえるものを作って、“ファン”を増やすということは、これまでと変わらないと思う。モノづくりはなんでもそこからよ。

でも、実際にどうしていくかは次の世代の人が決める話だから、これからは息子ら次第やね。



野地家の男衆

◎取材を終えて

今回、“木”の魅力をたくさん教えていただきました。息子さんたちと話していると、野地会長のモノづくりへの思いは脈々と受け継がれていると感じます。

色々と教えてくださりありがとうございました。

<三重大学>第32回 森林からの蒸発散 ～森林から大気へ返る水量を測る～

三重大学大学院 生物資源学研究科 平倉演習林 鶴田 健二

森林流域に降った雨は、一部は蒸発散（蒸発と蒸散）として大気へ返され、残りは下流域へ流出し水資源として利用されます。そのため、蒸発散の情報は水資源管理の上で重要です。本稿では、蒸発散の計測方法についてご紹介します。

(森林からの蒸発散と流出水)

日本国内において、蒸発散は年降水量の20～80%にのぼると報告されており、その分、流出水量を減少させることになります。森林は水を消費する存在なのです。蒸発散は、森林の状態（樹種、立木密度など）によって変化することがあるため、森林管理を行うことで蒸発散を変化させ、流出水量を調整できる可能性があります。

蒸発散は、プロセスの異なる3つの構成要素から成ります。一つは樹木の蒸散、そして樹体に付着した水分が蒸発する遮断蒸発、森林土壌からの蒸発である林床面蒸発です。このうち遮断蒸発は、森林の蒸発散を特徴づけるものです。森林は農地や草地に比べて背丈が高く、林冠も凹凸が大きいため、遮断蒸発が起きやすい条件がそろっています。そのため、農地などに比べて森林の遮断蒸発は大きくなります。これまで、遮断蒸発は降雨後に起きると考えられてきましたが、降雨中にも起きているという報告もあります。もし大雨の状況でも森林から遮断蒸発が生じて流出水量を減らしていることが明らかになれば、森林が洪水を緩和する効果も期待できます。降雨中にどのようなメカニズムで遮断蒸発が生じているのか、もしくは生じていないのか、研究が進められている段階です。

(蒸発散の計測方法)

蒸発散の計測方法には、流域水収支法、渦相関法（乱流変動法）、樹液流計測法が挙げられます。流域水収支法は、森林流域の降水量と流出水量を計測し、その収支から蒸発散量を推定します（写真1）。森林流域の貯留量の変化を無視できる期間で収支をとる必要があるため、一般的に1年間の単位で収支がとられ

ます。そのため、推定される蒸発散も年単位となります。

また、この手法は3つの手法のうちで最も歴史が古く、日本国内では1930年代からのデータが存在します。これらのデータを利用し、森林の遷移や成長、森林施業や気候変動などの長期に渡る蒸発散への影響評価が行われています。



(写真1. 森林流域からの流出水量の観測の様子。小さなダムの部分の水位を連続観測し、流出水量へと換算する。)

渦相関法は、微気象学的な蒸発散計測法の一つで、現在最も確実な計測法とされています。観測タワーを利用して森林の上空にアクセスし、風速計と水蒸気濃度計を用いて、森林と大気間で輸送される水蒸気量（蒸発散量）を計測します（写真2）。この手法では30分ほどの時間単位のデータが得られるため、流域水収支法では難しかった、細かな環境応答（気象条件や土壌水分に対する応答）を調べることができます。



(写真2. 渦相関法による蒸発散の計測の様子。左が超音波風速温度計、右がCO2/H2Oアナライザー)

- 1990年代頃から世界各地の森林で渦相関法を利用した観測研究が始まり、現在では「FLUXNET」として観測ネットワークが構築されています。2017年時点で914サイトが登録されており、公開されているデータは誰でも利用可能です。これらのデータを利用し、蒸発散の詳細なモデル化や、世界各地の様々な森林タイプ間の蒸発散量の比較解析が進みました。

樹液流計測法は、樹液流センサーを用いて幹の中の水の流れを計測し、蒸散量を算定する手法です(写真3)。樹液流センサーにはヒーターが内蔵されており、樹液流速の大小によってヒーターの熱が持ち去られます。その温度変化を計測し、樹液流速へと換算します。この手法では樹木1個体ごとの計測を行うため、蒸散量の樹種間の違いや個体サイズの違いなどを調べることが可能です。

一方で、森林群落や流域スケールへいかに拡張するかが課題となります。幹の中でも仮導管径の違いなどによって、深さ方向と周囲方向で樹液流速が異なることが知られています。また、同一林分内でも個体間で樹液流速のばらつきがあり、流域内では地形や林分の違いも考慮する必要があります。



(写真3. 樹液流計測の様子。上方のセンサーにはヒーターが内蔵されており、下方のセンサーとの温度差を計測し樹液流速を算定する。)

(樹液流センサーの自作と計測上の注意点)

樹液流センサーは自作することが可能です。市販品も存在しますが、自作することでコストを抑えることができ、サンプル数や観測地点を増やすことが可能になります。樹液流センサーにも複数のタイプが存在するため、ここでは、グラニエ法に基づく樹液流計測で利用するセンサー（グラニエセンサー）についてご紹介します。

グラニエセンサーは、ヒーターセンサーとリファレンスセンサーの2本1組から成ります。センサーの土台となるものは、医療用の注射針です。これを2cmの長さになるように切断し、2本のセンサーとも熱電対（銅とコンスタンタン）の接点を挿入します。ヒーターセンサーのほうには、ヒーター線（コンスタンタン）を注射針の部分にコイル状に巻き付けます。注射針の部分にアルミカバーを被せて完成です。樹幹にはドリルを使って穴を開け、樹液流センサーを挿入します。挿入した部分にはシリコンで防水し、アルミ箔などを使ってセンサーに直射日光が当たらないように保護します。

グラニエセンサーには常時、一定の熱をかけることが必要なので、森林での野外観測では電源の確保が課題となります。商用電源が利用できない試験地では、ソーラーパネルを用いて太陽光発電を行うなどして電源を確保する必要があります。

正確な蒸散量の算定のためには、グラニエセンサーのキャリブレーション（校正）が必要です。キャリブレーションは、野外で採取してきた木片を強制通水させ、その時の吸水量とセンサーの出力値とを比較することで行います。

(今後の研究展望)

樹液流計測では、これまではスギとヒノキでの観測事例が多いため、今後は広葉樹の観測データの蓄積が課題です。広葉樹には、散孔材、環孔材、放射孔材などの材の種類があり、材の種類によって蒸散量やその環境応答が異なることが知られています。広葉樹の観測データの蓄積を進めることで、スギ・ヒノキなどの針葉樹との比較解析も進めることができます。

気候変動が進む中、気温の上昇に加え、日本では長期的に強雨も無降水日も増加傾向となっています。気温の上昇によってより蒸発散が起きやすい条件となっている一方で、無降水日の増加は樹木にとってストレスがかかるので、蒸散は抑制される可能性があります。気候の変化が蒸発散そして流出水にどのような影響を及ぼすのか、長期的なモニタリングが必要です。

大断面スギ正角柱材の乾燥について

林業研究所 主幹研究員 中山 伸吾

戦後植林された人工林の高齢級化が進み、三重県においても10齢級以上のスギ、ヒノキ人工林の割合が8割以上を占めているという現状において、末口直径が36 cm以上の大径材が市場に出回るようになりました。

そこで、林業研究所ではスギ大径材の用途拡大を図るべく、無垢の芯持ち大断面材に合わせた乾燥スケジュールの確立を目指し、研究に取り組みました。

●はじめに

平成22年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が、令和3年に「三重の木づかい条例」が施行されたことなどにより、公共建築物については原則として木造・木質化を図ることとなり、今後は公共の福祉施設や教育施設など、中大規模の非住宅建築物の木造化が進むと考えられ、こうした建物に無垢の大断面材をあらわしで使うといった需要が見込まれます。

そこで、林業研究所では前回（三重の林業 No.444）報告した大断面スギ梁桁材の乾燥に引き続き、末口直径約40 cmで50年生ほどのスギ丸太より切り出した、断面寸法230mm×230mm（仕上げ寸法210 mm×210mm）のスギ芯持ち正角柱材の乾燥に取り組みました。

●乾燥による割れの発生調査

長さ4mの前述の正角柱材を1mごとに切断し、木口からの蒸散を防ぐためシリコン樹脂で両木口をふさぐ方法で、小試験体を作製しました。木材は乾燥が進むと、表面から収縮が始まるため、表層に発生した引張り力に負けて表面に割れが発生します。そこで、表面割れの発生を抑制するため、ドラインセットという処理を行いました。

小試験体は蒸気式木材乾燥機により、乾球－湿球温度が95℃－94℃で12時間蒸煮した後、乾球－湿球温度110℃－80℃で15時間ドラインセット処理を行い、表面割れについて調査しました。その結果、小さな木口割れが発生した材も見られましたが、木口以外の箇所表面割れは軽微なものでした。

ドラインセット後、乾球－湿球温度が80℃－52℃の条件で、それぞれ144時間、216時間、288時間、中温乾燥を行い、表面割れと含水率分布および材色変化について調査しました。

び材色変化について調査しました。

中温乾燥後の材は、ばらつきはあるものの処理時間に関係なく表面割れが発生しており、ドラインセット処理で発生した木口割れは大きく広がっていました。また、幅0.5mm以上の表面割れは、144時間処理した材が181mm/m、216時間が347mm/m、288時間が635mm/mとなりました。確認のため216時間について再度試験を行ったところ、表面割れは290mm/mに抑えられましたが、木口割れが拡がり長さ250mmを超えた材面もありました。木口割れ発生の原因としては、シリコンによる被覆が十分でなかったことが考えられ、中温乾燥によって割れが広がってしまったものと思われます。

そこで、梁桁材の乾燥条件と同じ蒸煮8時間、高温セット18時間、中温乾燥216時間の処理を行い比較したところ、蒸煮12時間、高温セット15時間、中温乾燥216時間処理では大きな表面割れが発生しました。これは、ドラインセット処理の効果が得られていないことを表しており、原因としては断面寸法が大きいため熱が内部に伝わりにくく、中心部の含水率が高いまま材表面が急速に乾燥したことで、割れが発生したと考えられます。

●大断面スギ正角柱材内の含水率分布

大断面スギ正角柱材内の含水率分布は、中温乾燥後の試験体より切り出した、厚さ3 cmほどの試験片を11分割し、103℃の恒温器内で48時間乾燥させ、全乾法によりそれぞれの部位の含水率を測定しました。

全乾法による含水率分布をみると、乾燥前の見かけの比重が0.7を超える材については、中心部の含水

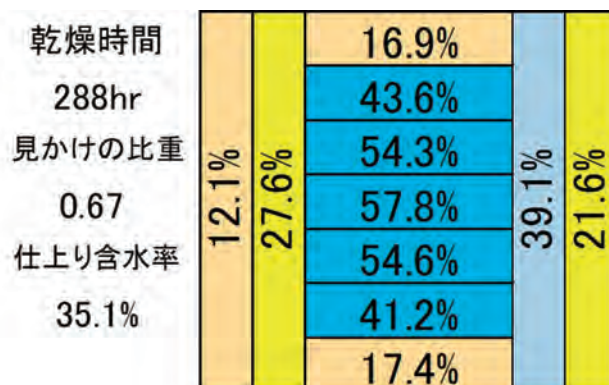


図-1 大断面スギ正角柱材内の含水率分布例

率が高く、仕上がり含水率が40%を超えるものが多く見られたことから、乾燥前の見かけの比重が高い材は乾燥が進んでいないことが判明しました（図-1、図-2）。

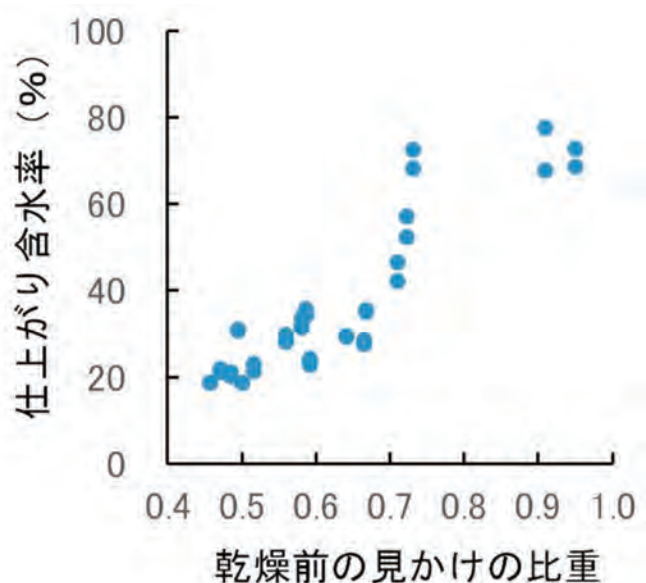


図-2. 乾燥前比重と仕上がり含水率（全乾法）

●人工乾燥による材色変化

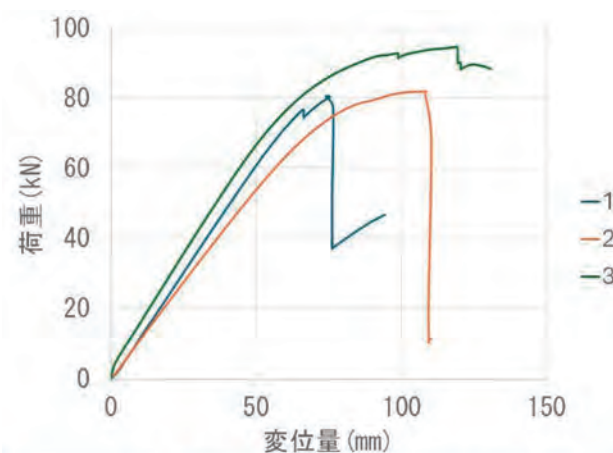
木材を蒸気式木材乾燥機で人工乾燥させると、乾燥前と比較して色が変化し、全体的に暗い感じとなります。色の変化を数値化した色差を測定したところ、材によるばらつきが大きいことから乾燥条件による目立った傾向はみられず、印象的には同じ色の範囲に入り、乾燥前後における色の変化については比較的小さなものとなりました。

しかし、乾燥後に仕上げ寸法に調整するため表面を約10mm削った後、同じように色差を測定したところ、柱材表面に心材部が露出し、明度の平均値が著しく低下したことで色差は違う色の範囲に入り、実際に見た目も違った印象となりました。

●実大材における試験

小試験体での結果を基に、断面寸法230mm×230mmで長さ4mの柱材3本を蒸煮8時間、高温セット18時間、中温乾燥216時間で乾燥しました。その結果、ドラインセット処理がうまくいっておらず、大きな割れが生じた材面もありました。

そこで、表面割れの曲げ強度への影響を調べるため、実大材強度試験機で曲げ強度試験を行った結果、曲げヤング係数は6.4～8.6GPa、曲げ強度は32.8～38.5MPaとなり、表面割れが発生しても基準強度は満たされていることが確認できました（図-3）。



	動的ヤング率(GPa)		今回の結果	
	乾燥前	乾燥後	ヤング率(GPa)	曲げ強度(MPa)
No.1	6.9	7.2	7.0	32.8
No.2	6.0	6.3	6.4	33.4
No.3	7.5	7.5	8.6	38.5

図-3. 実大材曲げ強度試験の結果

また、材色変化についてみると、今回は乾燥によって焦げたような状態となり、明度の著しい低下がみられ、色差は違う色の範囲に入りましたが、仕上げ挽きにより明度が大きく回復し、赤色と黄色の色度の低下が見られたことから多少くすんだ感じとなりました。

●天然乾燥による実大材の乾燥

長さ4mの実大材6本を12時間蒸煮した後、18時間ドラインセット処理を行いました。うち3本には48時間中温乾燥を行い、残りの3本の試験体はそのまま室内に平積みして天然乾燥を行いました。

ドラインセット処理による表面割れは最大115mm/mと軽微でしたが、中温乾燥した材は乾燥による木口割れや表面割れが発生し、最大480mm/mまで割れが拡大しました。しかし、その後の時間経過による割れの拡大は見られませんでした。

127日間（R6.11.5～R7.3.12）平積みした後の全乾法による含水率分布をみると、正角材の推定含水率の平均は102%から67%まで低下しましたが、材表面でさえ含水率が30%程度あり、ほとんど乾燥が進んでいない状態でした。乾燥工程途中における重量減少などの結果から、正角柱材が含水率25%以下に達するには、1年ほどの期間が必要であったと推測されました。

今回の試験で、大断面正角柱材の感想ではドラインセット処理において、梁桁材よりもかなり強めの処理が必要なのことがわかりました。

長森なあな日常 ～七転び八起き～

松阪飯南森林組合 長森 悠介

どうも、お久しぶりです。
松阪飯南森林組合の長森です。
今回は個人的に恥ずかしい転倒・滑落の体験談でも伝えさせてもらおうと思います。
急斜面や不安定な足場をフィールドとする林業では規模の小さいものなら日常茶飯事っすけど、一歩間違えると非常に危ないんで、注意喚起っすね。
林業に就職した誰もが通る道、それは林内移動に悪戦苦闘することだと思います。
林内で歩くための筋肉も普段使ったことのない部分に負荷がかかりますし、足の運び方や重心移動の方法も、言語化しづらい感覚の部分として個人間で異なる独自の発展をするまでは山の中でもがくことになると思います。
僕自身、職場の先輩方からは「センスがない」と言われ続けていましたし、客観的に考えても感覚を掴むまでに時間や失敗を人よりも多く積み重ねていたと思います。
ただ、どんなに遅くともいつかは誰でも少しずつなら出来るようにはなる。☑そして、成長が遅かった僕はそこで謙虚にならず調子に乗っちゃったんですよね。「俺、出来るやん！」って感じで。
この勘違いがきっかけで、人生初めてのヒヤリハットを経験しました。
ちょっと斜面が怖くなくなって、足元を注意深く見ずに斜面下の目的の場所に向かって歩いていた時、地面に横たわっていた枯れ枝の根元に躓いて、斜面の下の方へ頭から落ちていっちゃったんですよ。
「あっ」って思った時には両足が宙に浮いていて、そのまま一回転して斜面を滑っていたと思います。たまたま受け身を取れたのか怪我はなかったものの、心臓がぶっ壊れるほどバクバクと鳴っていたことを今でも覚えています。
やはり人間怖い思いをすると、そのフィードバックとして足元を注意深く見るように変わっていくんですよね。
しょっちゅう同じミスを繰り返す僕ですら、そのように変わっていききました。
前述したヒヤリハット体験が、入って1ヶ月経ったぐらいの時期だったと思うんで、怖い思いで済んだのは災い転じて財産となったと思います。その後に怪我をしちゃうんすけどね。
僕が怪我をしたのは入って11ヶ月ぐらいの時期でした。今まで5年と少し林業で働かせてもらって

ますが、労災はこの時だけだったと思います。
作業内容は架線集材をする準備工のお手伝いで、リードロープというロープを引っ張るものでした。
「とにかくまっすぐ行くんだぞ」という先輩の指示に対して「はい！」と僕は元気よく返事をして、どんなに歩きにくい場所であっても猪突猛進のように回り道をせず本当に真っ直ぐ歩いて行きました。
ある程度歩いていくと、整備のしてある法面の先に急な谷が出てきました。
「流石にここは降りれないけど、真っ直ぐ行かなきゃだし、降りなきゃいけないよなー」なんて考えながら、ロープの端を持って下を覗き込んでいた時、足を乗せていた不安定な石が崩れてそのまま谷へ落下し、着地の際に左足を浮石の上に着けてしまったため、変な音とともに変な方向へ曲げながら着地しました。
思い出してみても、超カッコ悪いっすね一笑。その瞬間は、アドレナリンと謎の申し訳なさで痛みは吹っ飛び、テンパり全開で「作業出来ます、大丈夫です！」ってな感じのことを言ったと思います。当然ながら、即病院・即労災でした。
この時はもちろん怪我した部分が痛かったことも辛かったですが、先輩から言われた「わからなかったら聞けよ」「成長する時期にもったいない」って感じの言葉を四六時中脳内無限リピートし続け、なにより林業をするために三重県へ飛び込んだのに怪我でそれが出来ず、「あれ、おれ、なにしてんの」と1ヶ月思い続けてたら10円ハゲができていました。
物理的な痛みよりも精神的なストレスの方が身体には堪えていたように、今振り返ると思います。
そんなことを防ぐためにもですね、斜面とは切っても切り離せない我々杣人ちゅーは、斜面の状況を把握し続けなきゃいけないだろうな、と思うんですね。慢心せずに、一步一步を確実に進めていくべきなんだろうと。
それと、わからないことや不安なことがあったら、勝手に作業を止めてでも聞く勇氣ってものも必要だと思います。
そりゃ「自分で考えろ」とか「言われなくてもわかるだろ」とかを言われる恐怖はあるでしょうけど、リスク回避をするための対価としては10円よりも安いだろうと思うんですね。
躓いたり転んだりしても、そこから無事に立ち上がったって元気で林業に従事していきましょうね！それでは。

「三重の林業」をデジタルアーカイブ化しました！

三重県林業技術普及協会 顧問 前田 芳宏

三重の林業を創刊号からPDF化するとともに、みだしの語句で検索できるようにしました。是非、ご活用ください。

(デジタルアーカイブ化の概要)

「三重の林業」は昭和29年（1954年）9月に創刊され、71年を経過した現在、448号を発刊するに至っています。これまで、本誌に関わった諸先輩方に改めて敬意を表するとともに、読者の皆様、記事執筆・記事集めにご努力いただいている県林業普及指導員の方々にお礼申し上げます。

紙の冊子としては三重県林業研究所に創刊号から最新号まで保管されていますが、その存在を知る人は限られ、また記事を検索するにも大変不便なものがありました。そこで、発行団体において、創刊号からデジタル化（PDF化）を行うとともに、各号の見出しをExcel表にすることで、見出しの語句により検索できるようにしました。その時々における三重県林業の課題や対応施策、県内林業界でご活躍・ご尽力された人々の姿などを知りたい、調べたい方には是非、ご活用いただければと思います。

(創刊号に掲載されていた記事)



それでは、創刊号ではどのような記事が掲載されていたかを少しご紹介いたします。

①創刊によせて 県農林部長 和田正明

- ・本県における林業施策の重点は治山治水と農山村経済の振興である。
- ・今後の本誌の発展を期待する。

②三重の林業発刊に際し

県林業改良普及協会長 稲森 茂

- ・県治山協会、県林道協会、県森林組合連合会、県林業改良普及協会が共同で「三重の林業」を発刊する。
- ・本県の特徴は殆どの森林が民有林であることであり、本県林業の興隆はお互いの民間人の努力にかかっている。

③篤林家を訪ねて 速水勉さんの巻

- ・尾鷲地域は皆伐の習慣が相当長く間伐は下木抜きといって弱度の間伐だったが、自分は強度の間伐（本数3割程度）を行っている。
- ・山を持つ人は山林所有者でなしに山林経営者であってほしい。

④精鋭樹発見懸賞募集

- ・精鋭樹として採用される樹木の発見者に対しては賞金千円を贈呈し、発見者の名を留めます。

⑤竹や竹（竹林栽培手法紹介）

- ・竹材価格が暴騰した場合は、竹林の保護に十分意を払い利益に浴することがよく、眼前の利に迷って竹林の荒廃を来さないこと。

⑥最近の木炭事情より見た今後の木炭価格の推移

- ・山村人口の増加と薪炭資材の不足は、山村収入の大部分を占めている製炭事業を益々不振に導くものである。

⑦これからの根切り虫防除

⑧県有林の概要と本年度事業

⑨昭和29年度造林補助方針 など。

（利用希望の方は三重県林業技術普及協会まで）

発刊以降、本県でも様々なことが起こりましたが、先人の努力と工夫、時の流れで乗り越えてきました。その歴史に学ぶことは、息の長い森林・林業に関わる者にとって、とても大切なことと思います。希望者（商用利用は除く）には無料でDVD等によりお貸ししますので、三重県林業技術普及協会（TEL059-228-0924）までご連絡ください。

地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回比	市況
松阪	素材	スギ	3m	16～18cm	並	14,000	15,000	↓	(供給動向、価格概況、先行き等) 【素材】 ・入荷量は少なめ。 ・スギ、ヒノキとも並材は前月と変わらず。 ・ヒノキ良質材は引き合いが強い。 【製品】 ・来客も少なく、材の売れ行きも弱い感じ。
			4m	20～22cm	並	13,000	14,000	↓	
			4m	24～28cm	並	14,000	15,000	→	
			6m	18～20cm	並	18,000	20,000	→	
		ヒノキ	3m	16～18cm	並	22,000	23,000	→	
			4m	20～22cm	並	20,000	22,000	→	
			4m	24cm以上	並	20,000	22,000	→	
			6m	18～20cm	並	30,000	30,000	→	
	製品	スギ	3m	10.5×10.5cm	特一	80,000	90,000	→	
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円／m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回比は6月の市況との比較。

三重の林業(令和7年7月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～

(「三重の森林づくり基本計画2025」がスタートしました！)

・県の目指す森林・林業施策の基本方針がよくわかりました。各数値や重点施策が達成された先に実現する森林・林業の姿、社会の姿はどのようなかに興味が湧きました。

(「みえ森林教育プログラム」を作成しました)

・多くの方々に手にとってもらいたいと感じるほど充実した内容と感じています。森林学習会の企画をする際に参考にさせてもらっています。

(みえ森林・林業アカデミー第2代学長に白石則彦東京大学名誉教授が就任しました)

・アカデミーの学長が交代されることで、新しい風が入るこの先が楽しみです。

(林業で働く人々を応援します！)

・林業の現場はイメージもしにくいなど人材確保は難しいと思いますが、体験ツアーなどで身近に感じてもらえれば少しは増えていくと思う。

(＜三重大学＞第31回・神社に残る古代の森)

・神社の森もその植生により来し方がわかるという話は興味深かったです。

(優しい先輩に囲まれて、楽しく仕事しています！中勢森林組合 辻宗一朗さん)

・やる気がみなぎり、一生懸命に森林の中で汗する姿に心打たれました。

(この人に聞く：地域おこし協力隊 坂入亮兵さん)

・林業が兼業しやすい分野というアプローチは重要な視点で、大変参考になりました。

(ウスヒラタケ選抜株の栄養成分等の含有量について)

・食べたことがありますがおいしかったので、本格的な生産・販売に向けて頑張りたい。

(長森あなあ日常：松阪飯南森林組合 長森祐介)

・軽妙なタッチで綴られた林業就業体験記はおもしろく、第2号を待っていました。

(最近の再造林の動向について～再造林の減少・低迷は、将来の人工林資源の危機！～)

・見た目の数字だけにとらわれずに、森林の現状や木材の活用状況、現地の実情について、深く考えていく必要があると思いました。

・伐採・再造林への積極的な支援と支援内容の情報共有ができていければ良いと思います。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 **三重県森林協会**
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220



台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください







「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います!

林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人

みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel : 059-261-1398 HP : <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1
TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> **STIHL Shop**
TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

間伐作業 高枝切作業 菌床きのこ生産 液体ガラス改質木材 家具製作販売 足場・支柱 製造販売

Forest 松阪飯南森林組合
【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
TEL.0598-32-3516 FAX.0598-32-3545
◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこ

OKO 株式会社 オオコーチ

三重のサステナブル経営アワード受賞 みえの木建築コンクール優秀賞受賞 JAS 認証工場 三重の木認証工場

三重県松阪市大黒田町 472 TEL : 0598-26-1551 FAX : 0598-21-2676 E-mail : info@ookochi.co.jp HP : <https://www.ookochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ
株式会社 nojimoku
〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
TEL : 0597-85-2485 FAX : 0597-85-4056
HP : <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進

アジア航測株式会社
http://www.ajiko.co.jp/
三重営業所
三重県四日市市安島一丁目5番10号
KOSCO四日市西浦ビル
TEL : 059-342-0501 FAX : 059-342-0503
森林環境課・森林情報課
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨
度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

注文住宅 太陽光 × 制震装置 × デザイン × コストパフォーマンス

完全自由設計の家づくり

oh// one house. 0120-02-1936
[営業時間] 9:00 ~ 18:00 [定休日] 水曜日
HP Instagram YouTube